

中医会発第74-040号
令和7年5月8日

沖縄県知事
玉城 康裕 殿

一般社団法人中部地区医師会
会長 今井 千春



中部地区医療提供体制協議会への要望書

謹啓 時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、中部圏域の医療体制とりわけ初期救急から三次救急まで全ての救急患者を受け入れている急性期病院については、定数超過入院が頻発し病床増床への対応が必要であることは論を俟ちません。

中部地区医療提供体制協議会において中部圏域必要病床数への言及がありましたが、第1回協議会では593床と示されており、議事概要でも今回提示した病床数は基準病床数であり国が示している計算式にのっとり算出しているとあります。しかしながら、第2回協議会では突如として105床との数字が示され、大幅な変更を示すに至った過程は公表されておりません。なお、105床とする根拠として令和4年度の病床稼働率、1日平均患者数を挙げられていますが、令和4年度はいまだ新型コロナが感染症2類相当とされ、人々が感染予防のため受診控えをしていた時期であり、平時とは一概に言えず、病床稼働率および1日平均患者数を根拠とするのであれば、人流が平時だった新型コロナ流行前、平時に戻った新型コロナ5類移行後のデータを根拠とすべきではないでしょうか。

また、第2回協議会では琉球大学病院の移転により、現在の中部圏域の基準病床数は4,658床、既存病床数は4,506床である、とされていますが琉球大学病院は特定機能病院であり、本来であれば基本病床数に含まない病床です。

さらに、急性期病床の病床切迫を招いている理由として回復期機能の不足による転院調整難航、看護師不足等があがっておりますが、アンケート回答の一部からの引用で根拠として弱く、現に、中部圏域としては病床整備について「必要だ」とのアンケート回答が51.7%となり、「ある程度必要だが慎重にすべき」の44.8%を上回っております。

今後の中部圏域の必要病床数については、地区医師協議会で出た意見を踏まえ、整理しつつ今後の病床数を検討していくとのことですが、定数超過入院が頻発し、切迫した状況でも救急医療が崩壊せずにあるのは現場の医療従事者の献身と不断の努力に他なりません。アンケートや病床機能報告といった数字だけではなく、救急医療を抱える現場の声を誠実に反映することを強く求めると共に、中部地区医療提供体制協議会においては中部圏域の急性期病院3病院の院長を含めた急性期・回復期・慢性期の意見を遍く求め、議論を進める会としていただくよう、重ねてお願い申し上げます。

謹白